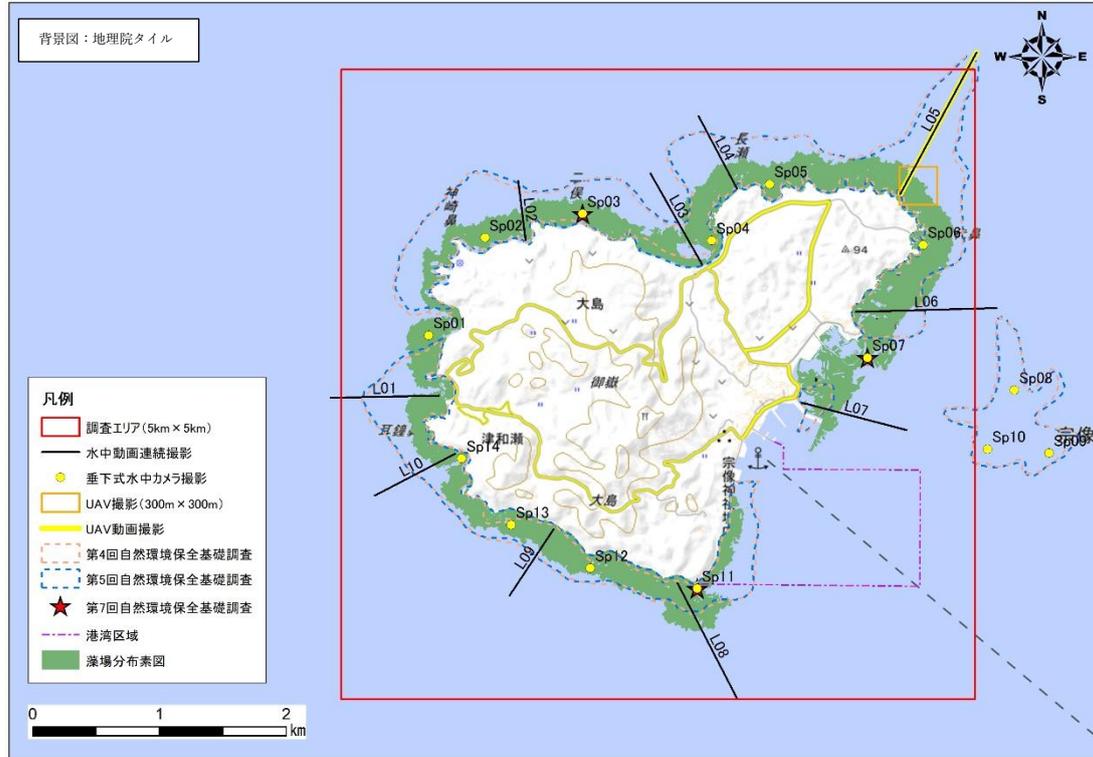


(1) 調査海域名	四国-九州沿岸海区 大島沿岸
(2) 調査海域の所在	福岡県 宗像市地先
(3) 調査海域及び調査位置図	

【調査位置図】



(4) 調査位置の詳細 (WGS84)

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイトの「現地調査の結果」の「調査結果（データ）」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン番号	岸側基点				沖側基点				測線長 (m)
	緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度	
1	-	-	-	-	-	-	-	-	855
2	-	-	-	-	-	-	-	-	472
3	-	-	-	-	-	-	-	-	834
4	-	-	-	-	-	-	-	-	653
5	-	-	-	-	-	-	-	-	1,275
6	-	-	-	-	-	-	-	-	1,109
7	-	-	-	-	-	-	-	-	858
8	-	-	-	-	-	-	-	-	1,034
9	-	-	-	-	-	-	-	-	633
10	-	-	-	-	-	-	-	-	718
測線長 計									8.4km

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット 番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-
11	-	-	-	-
12	-	-	-	-
13	-	-	-	-
14	-	-	-	-

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影範囲）】

撮影範囲	緯度		経度	
A	-	-	-	-
B	-	-	-	-
C	-	-	-	-
D	-	-	-	-

(5) 調査年月日 令和2年11月17日、11月18日 (UAV撮影：11月16日)

(6) 調査実施者 株式会社パスコ 北野武司 (調査責任者)

(7) 調査海域の概要

本海域の大島は、宗像市の沖約6.5kmの玄界灘と響灘の境界付近に位置している。第4回、第5回自然環境保全基礎調査では、大島の周囲ではガラモ場、アラメ場が広く確認されている。

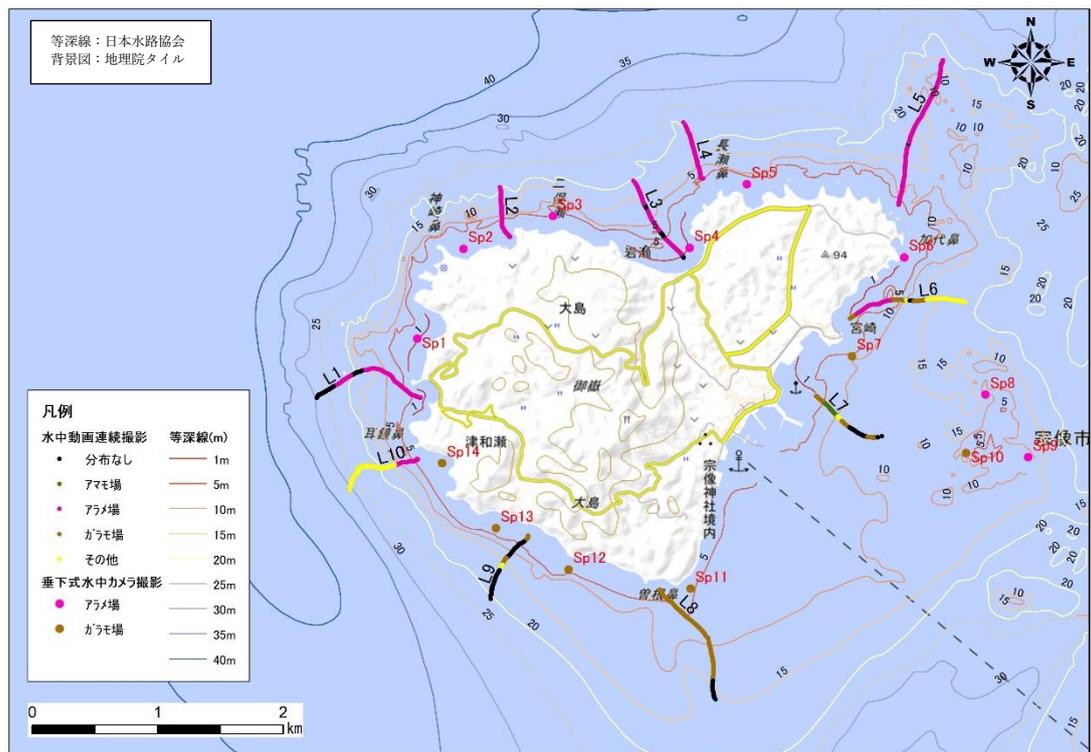
また、本海域を含む大島・地島周辺は、生物多様性の観点から重要度の高い海域（沿岸域）に指定されている。

現地調査は、大島の周囲にみられる藻場を対象に実施した。

宗像市大島沿岸海域での高度100mの年間平均風速は6.5～7.5m/sとなっている (NeoWins (洋上風況マップ) : NEDO)。

(8) 調査結果 ①水中動画連続撮影

【確認結果平面図】



測線 1：大島西側の調査測線、水深 D.L-3.8～30.1m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在し、多様であった。岩盤、礫上等にアラメ属が痕跡程度から密生で分布しており、水深 D.L-14m 程度まではホンダワラ類が痕跡程度から疎生で混生していた。

測線 2：大島北側の調査測線、水深 D.L-2.5～22.5m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在し、多様であった。測線全体にわたってアラメ属が痕跡程度から密生で分布しており、一部ホンダワラ類が点生で混生していた。

測線 3：大島北側の調査測線、水深 D.L-1.9～18.4m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在し、多様であった。岩盤、礫上等にアラメ属が点生から密生で分布しており、ホンダワラ類も痕跡程度から疎生で混生していた。

測線 4：大島北側の調査測線、水深 D.L-8.9～22.9m、底質は主に岩盤であり、礫、砂などが混在していた。岩盤上等にアラメ属が点生から密生で分布しており、ホンダワラ類も部分的に痕跡程度から疎生で分布していた。

測線 5：大島東側の調査測線、水深 D.L-2.8～19.1m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在し、多様であった。調査測線のほぼ全体にわたってアラメ属が点生から密生で分布しており、ホンダワラ類も痕跡程度から疎生で混生していた。

測線 6 : 大島東側の調査測線、水深 D. L-3. 3~-17. 8m、底質は巨礫、礫、砂の混在であった。礫上等でアラメ属、ホンダワラ類が痕跡程度から密生で混生しており、水深 D. L-16m 以深において小型藻類が確認された。

測線 7 : 大島南側の調査測線、水深 D. L-3. 8~-12. 1m、底質は主に巨礫、礫、砂の混在であった。礫上等にホンダワラ類が痕跡程度から密生で分布しており、水深 D. L-6m 以浅ではアラメ属も点生から疎生で混生していた。また、水深 D. L-7~-11m 程度の砂地でコアマモが疎生で分布しているのが確認された。

測線 8 : 大島南側の調査測線、水深 D. L-2. 0~-14. 1m、底質は主に水深 D. L-5m 程度までは岩盤に巨礫等が混在し、それ以深は巨礫等、礫、砂の混在である。水深 D. L-12m 程度までの礫上等でホンダワラ類が痕跡程度から濃生で分布しており、アラメ属も痕跡程度から密生で混生していた。

測線 9 : 大島南側の調査測線、水深 D. L-3. 5~-20. 9m、底質は主に巨礫、礫、砂の混在であった。水深 D. L-15m 程度までは、礫上等にホンダワラ類が痕跡程度から密生で分布しており、アラメ属も痕跡程度から点生で混生していた。

測線 10 : 大島西側の調査測線、水深 D. L-6. 9~-29. 6m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在し、多様であった。水深 D. L-16m 程度まではアラメ属が痕跡程度から密生で分布しており、ホンダワラ類も部分的に痕跡程度から密生で混生していた。それ以深では、小型藻類が確認された。



アラメ属・ホンダワラ類 (測線 2)



アマモ類 (コアマモ) (測線 7)

(8) 調査結果 ②垂下式水中カメラ撮影

【垂下式水中カメラ撮影 調査結果一覧】

地点番号	水深 (D. Lm)	底質	主要な藻類 (種名・被度)	備考
Sp1	-3.2	岩塊・巨礫	アラム属60%	
Sp2	-3.3	岩塊・巨礫	アラム属60%	
Sp3	-7.3	岩盤	ホンダワラ類30%、アラム属30%	アラム属との混生藻場、石灰藻が目立つ
Sp4	-4.9	岩塊・巨礫、礫	ホンダワラ類30%、アラム属30%	アラム属との混生藻場
Sp5	-5.5	岩盤、岩塊・巨礫	アラム属60%	
Sp6	-4.6	岩塊・巨礫	アラム属60%、ホンダワラ類30%	ホンダワラ類との混生藻場
Sp7	-5.8	岩塊・巨礫、礫	ホンダワラ類60%、アラム属30%	アラム属との混生藻場
Sp8	-14.8	岩盤、礫、砂・泥	アラム属30%、ホンダワラ類10%	ホンダワラ類との混生藻場、アラムは幼体が多い
Sp9	-12.9	礫、砂・泥	ホンダワラ類30%、アラム属30%	アラム属との混生藻場、アラムは幼体が多い
Sp10	-9.1	礫、砂・泥	ホンダワラ類10%	
Sp11	-3.9	岩盤、砂・泥	ホンダワラ類60%、アラム属30%	アラム属との混生藻場
Sp12	-7.7	岩塊・巨礫、礫	ホンダワラ類60%	
Sp13	-6.1	岩塊・巨礫、砂・泥	ホンダワラ類60%	
Sp14	-3.2	岩塊・巨礫、礫、砂・泥	ホンダワラ類30%、アラム属10%	アラム属との混生藻場



アラム属 (地点1)

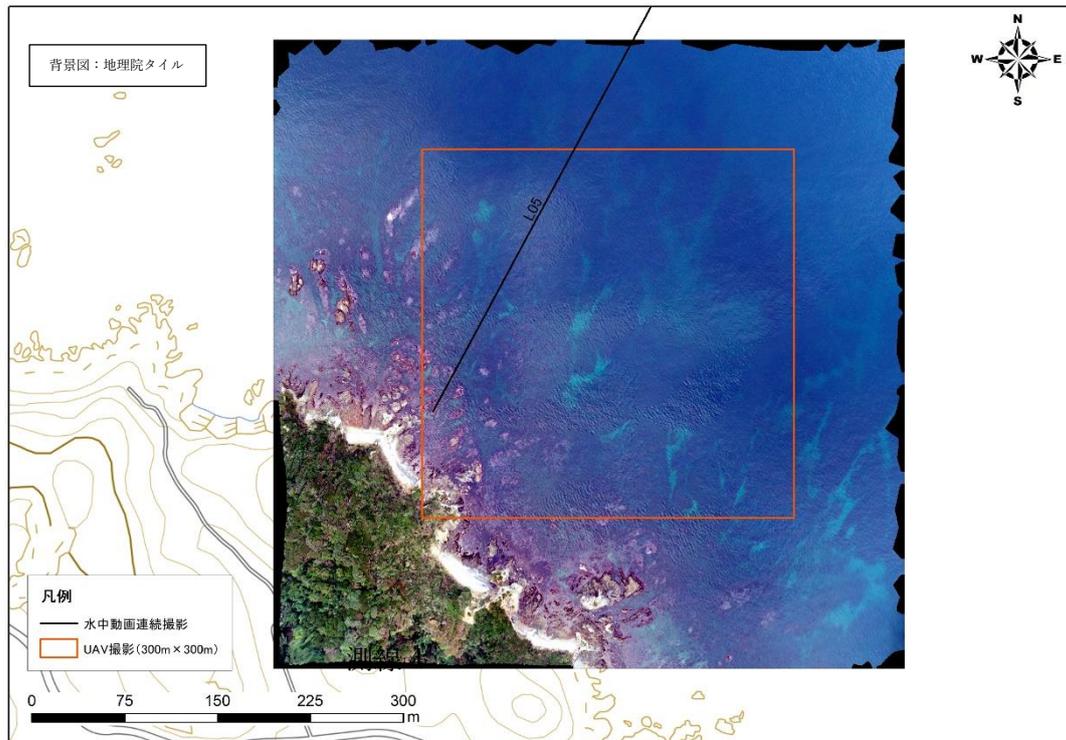


ホンダワラ類 (地点12)

(8) 調査結果 ③UAV 撮影

【UAV 撮影結果 簡易オルソ画像】

簡易オルソ画像からは、撮影範囲 (300×300m) 内の底質および藻場の分布状況が確認できる。



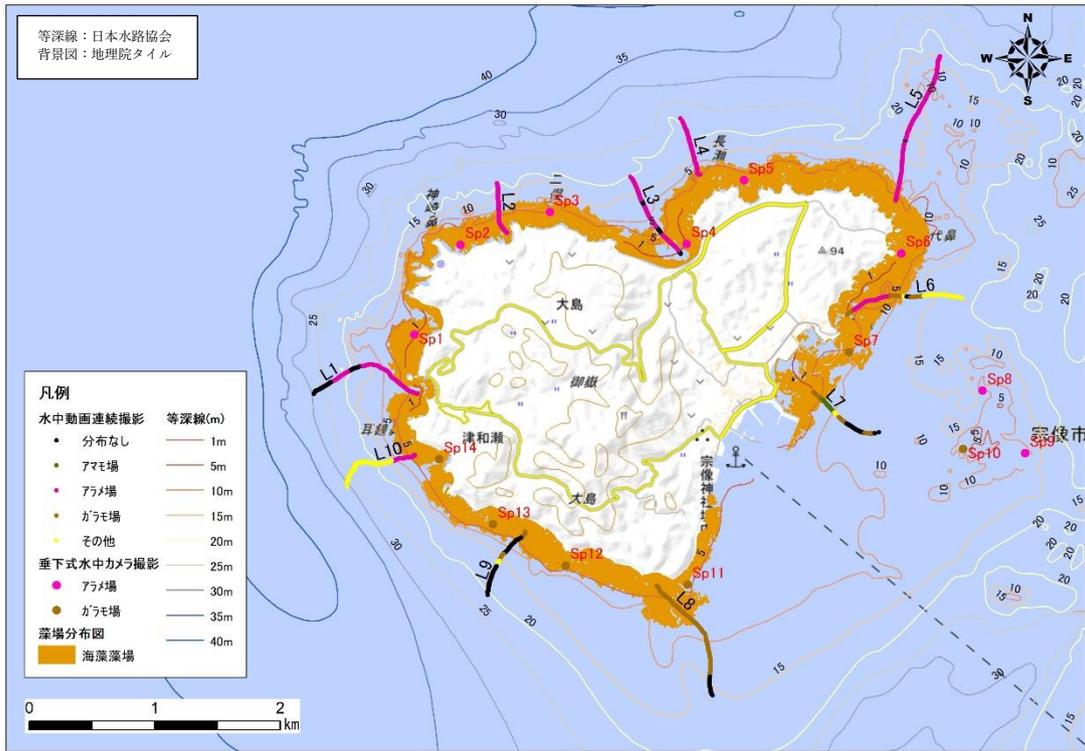
撮影時間	潮位※ ¹	風向・風速※ ²	波高※ ³	撮影高度	備考
2020/11/16 16:00~17:00	D. L 0.54m	東北東 1.4m/s	0.5m 以下	149m	

※¹ 潮位は、気象庁博多検潮所における 16 時時点の潮位表基準面上の値

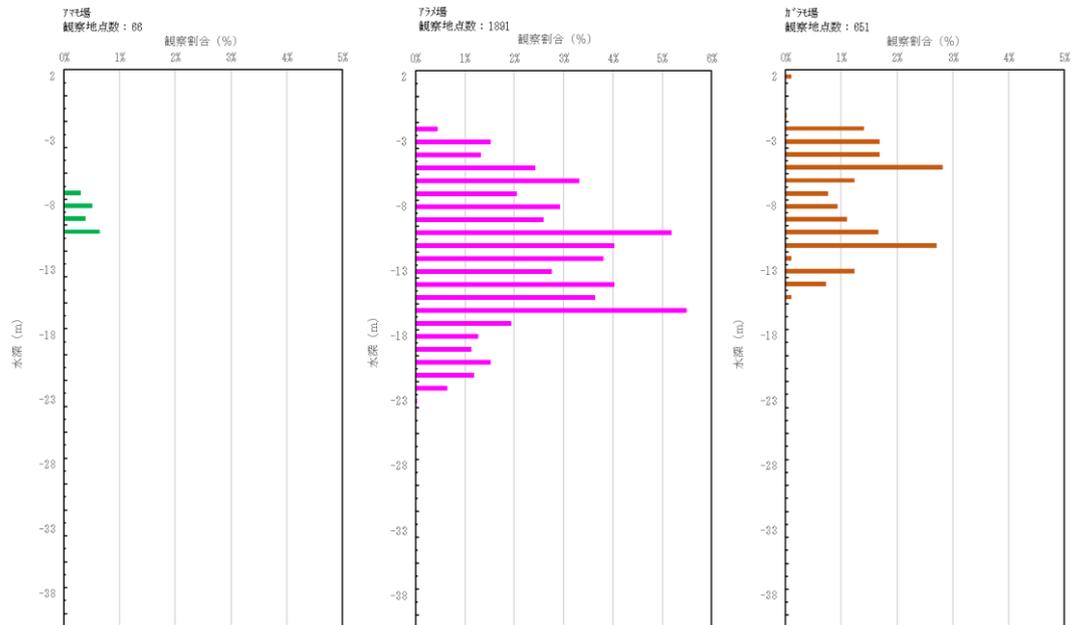
※² 風向・風速は、気象庁宗像観測所における 16 時時点の値

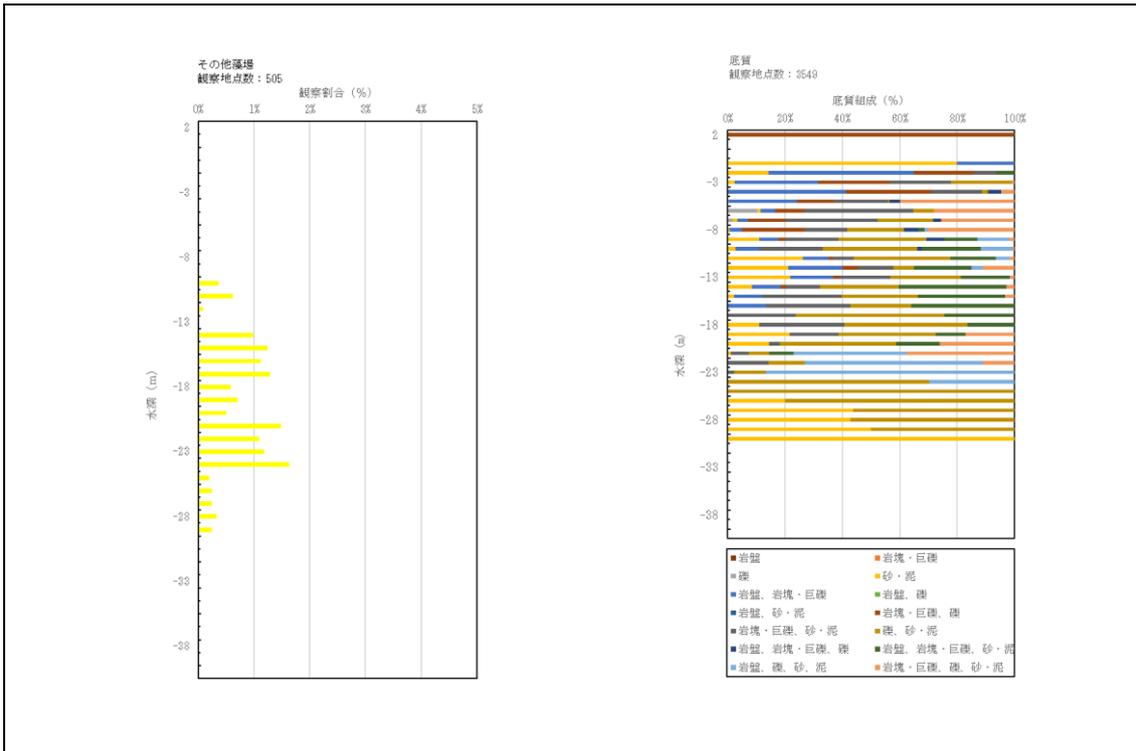
(9) 藻場分布調査結果図

【藻場分布調査結果図】



【藻場タイプ別出現水深頻度図】





(10) まとめ

調査海域は、宗像市の沖に浮かぶ大島の周辺海域であり、岩礁性の海岸である。島の周囲に設定した全ての測線と地点で、アラム属、ホンダワラ類などの大型褐藻類の分布が確認された。

アラム属は全測線で確認され、特に島の北側では水深 D. L-23m 付近の深所から D. L-2m 程度の浅所までの広い水深帯で見られ、水深 D. L-5～-15m 付近で被度が高くなる傾向にあった。

ホンダワラ類も全測線で確認され、アラム属と同様に水深 D. L-2～-23m の水深帯で見られ、南側の測線 8 では、水深 D. L-2～3m 付近の岸近くの浅所において密生～濃生の状況がみられた。

また、南側の測線 7 では、水深 D. L-11m 付近の砂質箇所アマモ類（コアマモ）がパッチ状に分布する状況が確認された。

(11) その他特記事項

※ 潮位補正は、気象庁推算潮位の博多（HAKATA）を用いた。